

# みやけの風

## 第 183 号

平成16年(2004年)7月24日(土)発行  
発行：三宅島災害・東京ボランティア支援センター  
発行責任者：上原 泰男  
東京都新宿区神楽河岸1-1 セントラルプラザ 10階  
東京ボランティア・市民活動センター気付  
TEL：03-3260-7573 FAX：03-5229-1646  
E-mail：tokyocenter@cmpo.org

『2月に避難指示解除』朝刊各紙の1面に大きな見出しが躍り、三宅村より「帰島に関する基本方針」が島民のもとへ届けられました。帰島への大きな一歩が、ついに踏み出されました。この時を待っていた人もあれば、どうしようかと考え込んでいる人もあるでしょう。家族や身体の事情は人それぞれですが、村の方針が出た以上、残された時間と限られた条件の中で決めることになるでしょうが、三宅島と島民を心配している人たちがたくさんいることも、時には思い出してみてください。

島民の皆さまにはすでにお手元に届いていることと思いますが、7月20日発表された「帰島に関する三宅村の基本方針」より、村長あいさつを転載いたします。

### 三宅村民の皆様へ

本日、帰島に関する三宅村の基本方針を発表しました。

私は、2月に村長に就任以降、村民の皆様にお約束した早期帰島に向けてさまざまな努力をしてきました。三宅島の現状と今後の火山活動の見通しを前提に、どのようにすれば帰島が可能となるかを、村民の安全確保を第一に検討を重ねてきました。これまでに、国、東京都において調査、検討（火山ガス検討会等）してきた内容及びこの5月に実施した住民意向調査の結果などを踏まえ、村が設置した専門家会議の意見も聞いて総合的に判断をしました。その結果、火山ガスの放出が止まらない現状でも『火山ガスとの共生』を基本的考え方に、村民の自己責任に基づく帰島が可能であると判断いたしました。

『火山ガスとの共生』には、行政が進めるべき安全確保対策と、火山ガスのリスクに対する住民の心構えが必要不可欠です。

村では今後もリスクコミュニケーションを継続して実施することにより、火山ガスに対する不安や疑問を解消していきたいと考えています。また、今月中に各世帯の詳細調査に入り、帰島後の安定した生活が確保できるよう、その対策を検討します。8月末までには「三宅村帰島計画」をまとめ、その後、住民説明会を開催して村民の皆様にお示しいたします。

これからは、限られた時間の中で様々な事業を実施して行かなければなりません。帰島に関する意向調査においても早期帰島を望む声が多く、我々島民が一丸となって復興に当たれば、ふるさと三宅島は再生されるものと確信しております。

村役場職員は、帰島に向け全力で取り組んでまいりますので、皆様の尚一層のご協力をお願い申し上げます。

平成16年7月20日

東京都三宅島三宅村長 平野 祐康

**三宅島災害・東京ボランティア支援センターより****『帰島宣言』にふれて**

永い永い時の経過のなかで、様々な人々の顔が思い浮かびます。

困難な暮らしの中で、今日までジッと『この時を待っ』ていた方々……。人知を超えた災害に立ち向かった長谷川前村長、都庁の中で被災者の方々を気遣い、三宅島の復旧・復興に努力された方々……。

あの日から4年が経過した今、平野村長の力強い『帰島宣言』。多くの島民の方々がしっかりと引き受けて、新しい暮らしの再建に向けて歩みを始めて欲しいと願います。

その一人一人の人生をかけた再出発に対して、三宅村をはじめとする関係機関の方々による、引き続きのきめ細やかな支援策を切に望みます。

最後に、三宅島災害・東京ボランティア支援センターは引き続き、皆様と共に歩みつづけます。

今後島民の皆さまの多くが、帰島に向けて動きを始めるでしょう。しかし一方で、様々な事情で帰島の選択を出来ない方々も出るかと心を痛めます。

支援センターは非力ではありますが、いずれの選択をされた方々に対しても心を配りつつ、歩みたいと思います。

2004年7月23日

三宅島災害・東京ボランティア支援センター  
事務局長 上原 泰男

**東京ボランティア・市民活動センターより****三宅島の帰島に際して**

町長の帰島宣言により、三宅島への帰島が現実のスケジュールとなり、火山ガスとの共生という大きな課題を前に、島民の方々はこれから困難な決断をされることになりました。島の状況を見聞きするうえでは、帰島への期待と、今後の生活への不安が合い半ばしていることと思います。

今後、帰島に向かって具体的なスケジュールと復興のための様々な施策等が示されると思います。その中で、新しく生活を創り出していく島民の方々に、東京ボランティア・市民活動センターは今まで同様、多くの市民活動団体とともに島民の皆様の支援を行なっていきたいと考えております。

2004年7月24日

東京都社会福祉協議会 東京ボランティア・市民活動センター  
統括主任 齋藤 道生

**みんなの声****これでよいのか村の対応**

先日自己責任で帰島と言われているところから、自分で帰島時、火山ガス濃度を知りたいと思い、二酸化硫黄検知器を購入したので購入先を教えて欲しいと村役場に電話したところ、はっきりした答えが帰ってこなかった。

そこで、自分のことは自分でと思い、調べて購入することにした。

ガス、ガスと言われているが、酸性雨についてはなにも発表されていない。帰島時、雨だれで霧除けの銅版びきの屋根を見たらピカピカに光っていた。半日弱、カップを

着ずに屋外作業をしたら、毛髪が赤く脱色した。目にしみた雨水により、目はちかちかした。

こんなところでは作物は出来ないと思い、次から帰島時に何度か種をまいたが、芽は出なかった。友人に分けてもらった植木を、一年東京で育てミズゴケを周りに敷いて酸度調整をし、島で植えたが枯れた。知人に聞いても、同じ事をやっても枯れたと言う。

現在の三宅での生活をする上での条件、以前の生活との違いを、空気だけでなく、生活全般について、知らせる必要があるのではないかと思う。(北区桐ヶ丘 神着住民)